どうかんきょう

同関協だより

第64号

真宗大谷派同和関係寺院協議会

2022年6月30日発行

慶讃法要お待ち受け　「同関協」第1回「是旃陀羅」問題を考える奉仕団　2022年3月8-9日

主な内容

P 2　全国水平社創立百周年記念集会
P 4　「是旃陀羅」問題についての意見書
P 6　第1回「是旃陀羅」問題を考える奉仕団

真宗大谷派
同和関係寺院協議会

宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃テーマ

あなた　人間　忘れていませんか？

共に、朋に、友に生き遇いましょう

ご意見・ご感想募集

『同関協だより』編集委員会では、より良い紙面づくりのため、皆さまのご意見・ご感想を募集しています。

QRコードをスマートホンなどで読み取っていただければ、ご意見・ご感想の受付フォームが開きます。

受付期間は次号発行日までです。

QRコードが読めない場合は、次のアドレスをご利用ください。

同関協だより64号アンケート

https://forms.gle/JtkGtRwsgvUy4aTM6

会費納入のお願い
（年会費5,000円）

［口座番号］（ゆうちょ）01010-6-2770
［口 座 名］ドウワカンケイジインキョウギカイ 同和関係寺院協議会

編集後記

第一回「是旃陀羅」問題を考える奉仕団が無事終了した▼一年以上前から計画を立て始め、主にリモートでのスタッフ会議を重ねた。しかし、新型コロナウイルス第六波の感染者が日々増加するニュースが伝わる中で、本当に開催できるのか、ギリギリまで判断を延ばし、そんな中での開催でもあった▼二年連続現地研修中止の中、会員の皆さんと直接お会いできる久々の良い機会で、「是旃陀羅」問題について熱く議論や座談があった。ただ一泊二日・コロナ禍での本廟奉仕団では、十分な時間確保ができず無念の思いでもあった▼この「是旃陀羅」問題について、宗門の中には「本山（内局）はどう考えているのか？本山が方針を決めればそれに従うし、解決する」とお考えの方もみられる▼これではいつまでも人任せで、なかなかこの問題が僧侶・門徒、一人ひとりの課題となっていかない。一人ひとりが深く考えていく必要がある問題のはずが、本山が方針を決め、それで課題解決と勘違いをし、ただ、そこに従っているだけでは、自身の課題とはなっていかない▼この問題が提起された背景には、単純な言葉の問題だけではなく、部落差別問題で苦しむ人たちからの大きなメッセージがあるはずだ▼熱く議論をしている事が、「同関協」の中だけでなく、真宗大谷派宗門全体の課題・仏教界の一人ひとりの課題となって熱く議論される日が来る事を願ってやまない▼今は私の中でも、課題解決策は見つかっていない。ただ、自身の課題として日々この問題を考え続けることが、この問題の解決、ひいては部落差別問題の解決につながっていくと信じている。学習会や現地研修に参加し、そこから自身の課題として向き合い続けることを忘れてはいけない。

編集委員　伊藤慈成

同関協だより 第64号

発行日　2022年6月30日　発行人　松尾英城
発　行　真宗大谷派同和関係寺院協議会　真宗大谷派解放運動推進本部内「同関協」事務局
〒600-8164　京都市下京区上柳町199　☎ 075・371・9247

2022年 水平社創立100周年　2023年 宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年　2024年「同関協」発足50周年
2022年 水平社創立100周年　2023年 宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年　2024年「同関協」発足50周年

全国水平社創立百周年記念集会

参加報告　編集委員　浜口和也

二〇二二年三月三日、全国水平社創立百周年にあたり、部落解放同盟中央本部主催の記念集会が、京都市・岡崎の「ロームシアター京都」にて開催された。

新型コロナウイルス感染症の拡大によるまん延防止等重点措置が発出されたため、規模を縮小し、全国より約一五〇〇人の参加となった。

オープニングでは、京都で古より伝えられてきた念仏踊りの一つである「吉祥院六斎念仏踊り」が披露された。

この踊りは、長い間、部落差別によって吉祥院天満宮「舞楽殿」の舞台で踊ることを禁じられてきた。「踊りたくても教えてもらえない」、悔しい思いを跳ね除けて、見よう見まねで地道に大人から子どもたちに伝承されてきた歴史がある。地域の文化・宗教行事を満足に営むことが出来ず、また他の地域から排除されてきた被差別部落の人々の悲痛な叫びが込められた踊りであるように受け止められた。

同時に、人間平等の精神を養うはずの宗教が、かえって人間の差別性を正当化したり、助長してしまった歩みがあることを決して忘れてはならず、また専門的な性質に隠れてその差別性が見えにくいところに今後も注視しなければならない。

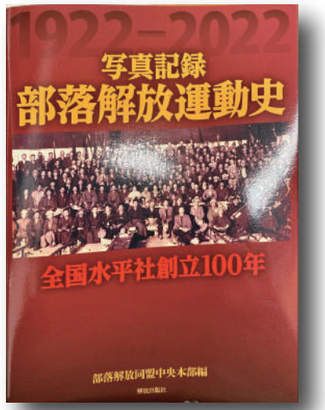
開会式の挨拶において、部落解放同盟中央本部・組坂繁之中央執行委員長は「水平社宣言は、これまでの同情融和の運動を排し、部落民自らが人間の尊厳を求めて、集団運動を立ち上げる、世界初の人権宣言。私たちは、この宣言が運動の原点であるということをもう一度、この百周年を機に、胸に刻みつけなければならない」と訴えた。

また、部落解放の「よき日」―人権確立社会の実現に向け、必ずや新しい歴史を刻んでいく「新たなる決意」として、決意表明が発表され、部落解放同盟福岡県連合会の松本美鈴さんによる朗読がなされた。全国水平社創立の綱領の言葉から、「自らの自覚と行動によって絶対の解放を期せん」とした運動の原点を確認しつつ、「新たなる決意」の取り組みとして、「人権の法制度」の確立、「社会的格差・排除」に対する徹底した闘い、「世界の水平運動」の本格的な展開、そして、開かれた「未来志向の組織」としていく四点の項目を掲げ、これからの運動の方向性を位置付けた。

今日においても、このように新たなる決意をあげなければならない差別や戦争の現実がある。今こそ必要なのは、水平社に通底した精神である、「自らが人間の尊厳を求め、人間を尊敬すること」であり、「決して他人事ではなかった、差別も戦争も元は私が作り、自らが対立・分断を作っている」という自覚こそ、その運動の起点となりうるのではないだろうか。

百年前、人間の尊厳を求めて奮い立った人々の背景には、「呪われの夜」と言われた我々の想像を絶する厳しい差別の現実があったのである。

第二部として、水平社百周年の記念映画・リメイク版の『破戒』が上映された。七月に公開予定とのことである。時代背景は日露戦争の頃なので、是非とも多くの方々に見ていただきたい作品である。差別とは何か、戦争とはどういうことか。過去の出来事ではなく、まさに「今」である。



百周年に合わせて作成された記録

参加者に配られた記念大会旗

映画『破戒』（日本／119分）
2022年7月8日（金）公開
企画・製作：全国水平社創立100周年記念映画製作委員会
制作：東映株式会社
制作協力・配給/宣伝：東映ビデオ株式会社
制作プロダクション：東映株式会社京都撮影所
原作：島崎藤村『破戒』　脚本：加藤正人/木田紀生　監督：前田和男
公式サイト：http://hakai-movie.com/

現在、この姿勢を明確にすべく、お待ち受け奉仕団をはじめ、発行物の製作等の作業部会において鋭意協議をすすめております。これら事業は、本山助成に依るところが大きく、ご支援に対して重ねてお礼申し上げますとともに、慶讃法要を「同関協」50周年、また今後の活動の勝縁としてまいる所存でございます。

1、「是旃陀羅」問題について

さて、「同関協」における「是旃陀羅」問題についての意見集約をはかる中で、会員においては、文言の差別性を重視し、寺院での法要、またご門徒の年忌において『観経』の依用を控える、または「是旃陀羅」部分を黙読するなど、各会員が思慮を尽くして対応しております。そのような現状において、「是旃陀羅」を「不読」とする意向が大勢を占めており、それを宗派に要求したいとの声も挙がっております。

すでに宗会では、「「是旃陀羅」問題に関する決議」が可決し、被差別部落のご門徒に対する謝意が示されましたが、具体的な取り組みについての言及がないことに疑問を抱く会員も少なくありません。

「同関協」においては、この「是旃陀羅」問題に対する基本姿勢が、今後の差別克服の歩みの方向性を決定していくことに鑑み、「是旃陀羅」問題について意見を申し上げる次第でございます。

「同関協」の総意は、慶讃事業を通して表明してまいる所存ですが、すでに常任委員会においては、『観経』を、「読誦するも不問」たる現状から「不読にして問う」、つまりご門徒の眼前で問題を提起することなく読み続けている現状から、法要・儀式の場での読誦を控えつつ、信心の課題として積極的に問題提起していく方向への転換が求められているといった提言がされております。

宗派としての一定の見解は、2022年の水平社創立100周年を目処に発表されると聞き及んでおりますが、ここでは何卒、我々の意見をお汲み取りいただき、「是旃陀羅」不読の意を、宗派見解としてお示しいただきたくお願い申し上げます。

「同関協」は、これまで総会等において内局との懇談の場を設けてきました。総長におかれては、次年度の総会にはどうかご出席を願うところではございますが、現下、「是旃陀羅」問題については喫緊の課題として意見申し上げる次第でございます。

報告

「是旃陀羅」問題についての意見書

2022年1月、「同関協」常任委員会名で「是旃陀羅」問題についての意見書を宗務総長に提出しました。

時機としては、「是旃陀羅」問題を考える奉仕団の開催前でしたが、全国水平社創立百周年を目処に、部落解放同盟広島県連合会に対して、宗派から「一定の見解」が示されることを考慮し、常任委員会名での提出となりました。

「意見書」の内容は、第1回奉仕団において参加者と確認しましたが、「「是旃陀羅」問題を課題として差別の克服（人間性の回復）を果たす」との慶讃事業方針のもと、「是旃陀羅」問題に対する「同関協」の基本姿勢の明確化に向けて引き続き協議を重ねてまいります。

意見書には、「宗務改革」に対するお願いを併記しました。

ここでは「是旃陀羅」問題について提出した意見を掲載します。

2022年1月24日

宗務総長　木越　渉　様

真宗大谷派同和関係寺院協議会
常任委員会

「是旃陀羅」問題についての意見と「宗務改革」に関するお願い

謹啓　慈光のもと、ご清祥のことと存じます。

日頃は、真宗大谷派同和関係寺院協議会（「同関協」）の活動にご理解とご支援を賜り、誠に有難うございます。おかげさまで「同関協」は、2024年に発足50年を迎えます。

この度、宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年の慶讃事業として「同関協」は、「あなた人間忘れていませんか？　― 共に、朋に、友に生き遇いましょう ― 」をテーマに掲げ、「「是旃陀羅」問題を課題として差別の克服（人間性の回復）を果たす」という事業方針のもと、慶讃法要（讃仰）期間中に記念大会を開催し、被差別部落のご門徒と直接ご縁をいただいてきた「同関協」の「是旃陀羅」問題に対する基本姿勢を表明したいと考えております。

慶讃法要お待ち受け

第１回「是旃陀羅」問題を考える奉仕団

「同関協」慶讃事業方針

「是旃陀羅」問題を課題として差別の克服（人間性の回復）を果たす

▲参加者を迎えた和敬堂玄関

２０２２年３月８日～９日にかけて、「同関協」第１回「是旃陀羅」問題を考える奉仕団を宗祖親鸞聖人御誕生８５０年・立教開宗８００年慶讃法要に向けた慶讃事業の一環として実施した。

本奉仕団には、「同関協」元会長の片山寛隆氏を同朋会館教導に、「同関協」会員２０名と、部落解放同盟広島県連合会（広島県連）の岡田英治委員長にも参加いただいた。

日程の中で、岡田委員長からは、広島県連から「是旃陀羅」問題を提起してからの大谷派の９年間の取り組みを通して感じたことを、改めて提起していただいた。

片山寛隆教導からは、宗会での決議などに触れ、今が「是旃陀羅」問題をご門徒と共有できるかどうか、正念場ではないかとの問題提起があった。

その後、「問われたことへの応答」を主眼に行った座談会では、「痛みを感じるという声に対し、足を踏んでいる状態では話し合いはできない。まずは足をどけてからである」といった意見や「苦しんでいる人の声を聞くと、読めない」といった意見が出された。

本奉仕団の最後には、『観無量寿経』の「是旃陀羅」は読むことはできないという気持ちが、参加者の見解として確かめられた。

ここに、岡田委員長の提起の抄録を掲載するので、是非ご一読いただきたい。

（編集委員　小幡智博）

真宗大谷派
同和関係寺院協議会

宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃テーマ
あなた　人間　忘れていませんか？
共に、朋に、友に生き遇いましょう

岡田委員長の提起

本日はこのような機会を与えていただき感謝申し上げます。「同関協」の皆さんには、広島県連の「是旃陀羅」問題の提起をいち早く真剣に受けとめていただき、心からお礼を申し上げます。また、受けとめていただいた後の様々な取り組みに対しても心から感謝したいと思います。

『観無量寿経』の「是旃陀羅」の持つ意味を正確、かつ明確にしようと思えば、その前段に「母親殺しをするのは」としていることを押さえなければ、この問題の本質、差別のひどさが現実的な問題として受けとめられないと思います。「是旃陀羅」は、「母親殺しをするのは旃陀羅のやることだ」ということです。そして、教団や多くの学僧が、「旃陀羅とは日本の穢多のこと」と説いてきたことを考えると、「母親殺しをするのは部落民のやることだ」と説いてきたことになることを、最初にご理解をいただきたいと思います。

昨年二月、仏教界の差別を非常に厳しく追及すると同時に、親鸞思想、親鸞聖人の教えを学び続けてきた小森さんが亡くなりました。その小森さんが晩年、非常に「是旃陀羅」問題に関心を持って、これを仏教者が解決しなければ、真の仏教者、真の教団とは言えないと提起されました。問題の解決を見ることなく逝かれたことが残念でなりません。

広島県連が「是旃陀羅」問題を大谷派に提起したのが二〇一三年です。早いもので九年が経ちました。そして、大谷派は「水平社創立百年までに一定の方向性を出す」と言われましたが、今日時点（二〇二二年三月八日）において、その方向性はまだ打ち出されていません。

広島県連が提起して九年ですが、水平社の時代からいえば百年です。一九四〇年には、全国水平社の松本治一郎委員長や「是旃陀羅」問題に中心的に取り組んでこられた井元麟之さんが、東西本願寺に「善処」を申し入れています。そこからいうと八十二年になります。昨日や今日提起した問題ではないのです。そのことも押さえておいていただければと思います。

インドに四つの身分階層（バラモン、クシャトリア、バイシャ、シュードラ）がありました。シュードラは隷民ですが、ここまでは人間扱いです。人間外の人間とされたのが旃陀羅（チャンダーラ）です。旃陀羅は人間ではなく「禽獣」と説かれてきました。

仏教は救い、救いと言うけれども、それは抑圧されていたとしても、その対象は人間とされた階層であって、人間外の人間とされた旃陀羅は視野になかったんじゃないですか、外されていたんじゃないんですか、頭の片隅にもなかったんじゃないですかと、つい言いたくなるし、言わせてもらっているということであります。

一九五六年、ヒンドゥ教では差別はなくならないとして、アンベードカルという被差別カースト出身の指導者のもと、被差別カースト約五十万人が仏教に集団改宗しました。現在は約三千万人と言われていますが、一億人と言う人もいます。少なく見て三千万人です。仏教に人間平等の希望を見いだしたわけです。仏教こそが平等なんだということで、仏教に改宗したわけです。その仏教で、日本では「母親殺しをするのは旃陀羅だ」と読まれているわけです。

広島県連は、水平社宣言の読み替えをやりました。ちょうど「是旃

陀羅」問題を本願寺派へ提起しているさなかに、自分たちの足元を見ると、水平社宣言に今の人権水準では耐えられない文言があり、率先して読み替えをしました。

宣言の「兄弟」を「兄弟姉妹」に、「男らしき」を「人間らしき」に変えました。特に「男らしき」は今のジェンダー平等の視点からいえば駄目です。そして、天皇制と関係する元号の「大正十一年」を「一九二二年」に変えました。

物事の現状を変える場合、幾らかの選択肢があります。例えば、問題の文言を原文のままにしておいて、読むときだけ「人間らしき」と読むやり方もあります。広島県連はさらに踏み込みました。文脈上差別的な文言は目に触れないほうがよいということで、原文も変えて集会や大会で読んでいます。選択肢は幾らかあるわけです。もちろん歴史的文書としての宣言は変えることも消し去ることもできません。『観経』に対する対処の方法も幾つかあると思います。

岡田委員長からの問題提起

水平社宣言を起草した西光万吉さんが、広島県連がとった措置を「勝手に変えてけしからん」と怒っているか、それとも、水平社創立大会の綱領で「人類最高の完成に向かって突進す」と謳った西光万吉さんが、「広島県連がわれわれの少し至らなかったところをちゃんと直してくれておるな、『人類最高の完成』に近づけていってくれているな」と笑みを浮かべられるか、どちらだろうかと考えてみていただきたいと思います。

『観経』の「母親殺しは旃陀羅（穢多）のやること」を今の時期に大谷派が何らかの現状変更の措置を取ったとして、お釈迦さんや親鸞聖人が怒るだろうか。それとも「よく本来の教えに戻してくれた」とお釈迦さんが思われるか。親鸞聖人が「自分が至らなかったことを正してくれた」と思われるか。想像力を働かせてみていただきたいと思います。

大谷派の九年間の取り組みを見ていまして、幾つかの感じるところを述べたいと思います。

一つ目は、東西本願寺とも言えることですが、経典絶対視、経典・経言無謬論があることです。経典は、絶対的という考え方です。具体的には、経典は一言一句すべてが仏説（金口の説）なんだということを言われます。われわれは経典を大事にしなければならない、経典は非常に教団にとって大事なものだという一般的な考え方は理解できます。しかし、私たちは一般論で議論しているわけではありません。「是旃陀羅」に焦点を当てて議論をしているんです。「是旃陀羅」のどこが仏説かということです。

二つ目は、『観経』の視座を考える、『観経』が何を言わんとしているかを考えるべきだという考え方です。これについては、視座を考えることは確かに重要ですが、視座がよければ差別を正当化できるのかという疑問はついて回ります。韋提希がお釈迦さんの教えで救われるという、その視座がよければ、その過程の中で旃陀羅に向けて差別をしてもいいのか、許されるのかということです。

三つ目は、経典絶対視とも関係しますが、「是旃陀羅」を誤って解釈してきた僧侶、教団の罪責を問うべきで経典を問うべきではない、こういう考え方です。私は両方を問わなければならないと思います。経典そのものの持つ差別性と、そして、それを差別的に説いてきた教団、僧侶の罪責は、どちらかの責任だというものではないと思います。

ただ、はっきり言えることは、善導大師をはじめ、その時代時代の高僧と言われている人たちが、例外なく差別的に説いてきたことの事実です。それは、私から言わせれば、「是旃陀羅」については、あのような差別的な説き方しかできないのです。誤って解釈したのではなく「是旃陀羅」を経典のとおりに解釈しているわけです。そのように分析するべきではないかと思います。

四つ目は、「是旃陀羅」は差別だが、差別と闘う経典として読めないかという考え方です。二〇一六年の「部落差別問題等に関する教学委員会」報告書の「韋提希をその差別社会に向かって再び立ち上がらせていくのである」としているところが象徴的です。このような考え方の人は、どちらかというと、悪意ではなく善意の人が多いと思います。

私は素直に『観経』は、愚かで罪深い凡夫の象徴としての韋提希が、お釈迦さんの教えで救われる経典だと思っています。それを差別と闘うことを説いた経典とするためには相当無理に無理を重ねないと

和敬堂講堂での勤行

できないと思います。今の時代もそうですが、お釈迦さんの時代も濁悪の世、差別社会ですから、差別社会であることを前面に出して強調し、悩んでいた人がそれで目覚めたということになると、「差別に立ち上がらせた」と言えないことはないのかもしれませんが、やはり相当前のめりで無理があると思います。

五つ目は、不読に慎重な根拠を「戦時中に聖典読誦を禁止した歴史」に求めていることです。一九四〇年に全国水平社がこの問題で東西本願寺に「善処」を申し入れたと言いました。大谷派のことは詳しく知りませんが、ちょうどその一九四〇年に本願寺派は聖典不拝読、削除の通達を出しています。例の主上臣下のところです。天皇制に屈服して、聖典を削除、不読にした歴史がある、その負の歴史があるから不読にしてはいけないという考えです。「是旃陀羅」の不読と戦時中の不読の歴史を同列視して不読にすべきではないとする考えです。

私は、これを聞いたときに、不読にするかしないかの座標軸という

か、鑑、そういうものがないのだろうかと思いました。その座標軸を私は、不簡の本願であり、平等の慈悲だと思っています。それを座標軸にして、不読にしてはならないものと不読にしなければならないものを考えていただきたいのです。

六つ目は、親鸞聖人は自身を「いし・かわら・つぶてのごとくなるわれらなり」と言われている、だから「是旃陀羅」で親鸞聖人は差別をしていないという方向へ持っていく考えです。私は、「いし・かわら・つぶてのごとくなるわれらなり」は、徹底して自己を見つめた求道者としての親鸞聖人の思想的到達点としての平等観を表していると思います。

班別座談の様子

ただ、それをもって「是旃陀羅」で差別をしていないと直結させることはできないと思います。親鸞聖人がこういうことを述べているから「是旃陀羅」で差別していないということは即結びつかないということです。

七つ目は、反面教師論です。文言を削除して不読にすれば、差別の歴史の隠蔽となる、こういう考え方です。

しかし、これではどのような差別の現実も永遠に残すこととなり、被差別の立場とすれば、いたたまれないです。

人間は差別の現実を残さなければ、忘れて罪責と向き合うことができないのでしょうか。「母親殺しは旃陀羅のすること」という露骨な差別を残しておかなければ忘れて罪責と向き合うことができないのでしょうか。

差別の現実を残さなくても厳しい差別があったことを歴史的に学ぶことは十分可能だと思います。

最後に、「同関協」の皆さんに期待するものです。

現在もそうですが、将来、十年、五十年、百年たって、うちの住職は、あの『観無量寿経』の差別の問題が出たときに、確かにそれをどうにかしなければならない立場でしっかり動いてくれていたという足跡を残していただきたいと思います。

本日はありがとうございました。

（文責　編集委員）

班別座談の様子

第1回「是旃陀羅」問題を考える奉仕団　班別座談会報告

参加者の主な意見

- □ 『観経』を法事等で用いるが、「是旃陀羅」問題について、どのように門徒さんに説明すればいいのか。
- □ 門徒さんの中には、部落差別問題に対し、そっとしておいて欲しい、触れられたくないという方も多い。そういった方にいかに伝えるか。
- □ 『観経』は読まないので自分には関係がないという住職がいるが、そういう問題ではなく、痛みを感じている人がいる以上、自身の問題として、宗門全体で共に考えていくことが大切である。
- □ 恥ずかしながら、自分は『観経』の「是旃陀羅」を無自覚に読誦していた。最近、学習等でこの言葉に触れる機会が増えたが、この問題をどのようにご門徒と共有していけば良いかが課題である。差別問題について、「話に出せない」という雰囲気が強い。
- □ 推進員養成講座を受講された方の法事では、『観経』を意識的に読誦している。
- □ 僧侶自身が、まず「自覚なき読誦」を止める。『観経』の「是旃陀羅」を読誦することによって、「痛い」という人の声に気付いてない人に対してどのように呼びかけるのか？
- □ 「是旃陀羅」問題を門徒に伝えるのは難しいから、「身元調査お断り」や「過去帳閲覧禁止」の話から差別の実態を伝える方が現実味がある。
- □ 「差別の歴史を担うもの」として、僧侶のプライドにかけて、経典に説かれた差別を背負い、被差別者の声に応答する姿勢を宗門内外へ発信する。
- □ ある門徒さんに、「あなた方は差別について話す場所があるのになぜ話さないのか」と言われたが、なかなか話せない。
- □ 私の中に本当に「痛い」が届いているのか自分を問いたい。

全体会：片山寛隆教導の総括

『観経』の「是旃陀羅」の箇所について、不読にする、しない、という問題も大切だが、そこで結論を出して終わりにするのではなく、そこからご門徒と関わる中で、この問題をどう共有していくのかが大切である。

「同関協」は、今年１０月実施予定の第２回奉仕団の結果を受けて、２０２３年４月の宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要記念大会において、「同関協」の「是旃陀羅」問題に対する基本姿勢を表明する予定である。

表明に向け、このたびの奉仕団において一定の道筋がついたように思う。

それは、現場の声として、この問題をご門徒さんにどのように伝え、共有していけばよいのかという悩みに対する「同関協」としての応答であり、「読誦」「不読」のどちらかではなく、現場では痛みをもって「読めない」という声や「読まれると痛い」という声にいかに寄り添っていくのかということである。

これからも悲しみをもって、おかしいことはおかしいと言える感覚を大切に、結論を出すことによって問題を終わらせるのではなく、この問題を一人でも多くの方と共に考え、思索を深め、継続して取り組んでいくことが願われる。

「同関協」の慶讃テーマである「あなた人間忘れてませんか？」の言葉につき動かされ、歩み続ける「同関協」でありたい。

（編集委員　治田裕臣）